

## 第2回勾当台エリアビジョン策定検討懇話会議事録

日 時 令和2年9月1日(火) 16:00~18:00

場 所 フォレスト仙台 2階第1・第2会議室

出席委員 岩間友希委員、姥浦道生委員(座長代理)、高山秀樹委員、舟引敏明委員、  
宮原育子委員(座長)

事務局 梅内淳まちづくり政策局長、郷湖伸也まちづくり政策局次長、  
松田智子まちづくり政策局政策企画部長、大森武宏まちづくり政策局政策調整課長、  
その他職員

### 1. 開 会

司 会： それでは定刻の少し前ですが、皆様お揃いですので、開始をさせていただきたいと思  
います。

ただいまより、第2回勾当台エリアビジョン策定検討懇話会を開催いたします。

開会の前に、本日の新型コロナウイルス感染症対策につきましてご案内申し上げます。懇話  
会開催にあたりまして、委員の皆様のお席の間隔は広めに配置をしてございます。また、委員  
の皆様をはじめ、集まりの皆様には、マスクの着用や入室時の手指の消毒をお願いしておりま  
す他、傍聴や報道機関の皆様にも受付での健康状態の確認、お名前やご連絡先の提供にご協力  
いただいております。ありがとうございます。なお会場ですが、常時、機械による換気を十分  
に行っております。その上で、適宜、廊下側の扉を解放させていただく場合もございますので、  
あらかじめご容赦いただきたいと思います。

続きまして、配布資料の確認を行わせていただきます。まず、座席表がございまして、続い  
て本日の次第がございまして、それから右肩に資料番号を記載しております資料が、1から6ま  
でございまして、資料1がA3の1枚もの。資料の2番がA4の冊子となっております。資料  
3がA3版2枚と、資料の4、5はそれぞれA3が1枚、最後にA4の資料1枚という構成に  
なっております。

それから委員の皆様には、議論の参考にとということで、エリアの地図を、縮尺の違うもの  
2枚を準備してございます。また、前回の会議資料をファイルで準備しておりますので、ご活  
用いただければ幸いです。

資料等の不足はございませんでしょうか。

(不足なし)

ありがとうございます。

それでは進行を宮原座長にお渡しいたします。宮原座長、どうぞよろしく願いいたします。

宮原座長： はい、わかりました。

皆様、こんにちは。第2回の勾当台エリアビジョン策定検討懇話会を始めたいと思います。  
どうぞよろしく願いします。

議事に入る前に、数点、確認をさせていただきます。本日の懇話会ですが、非公開とすべき

内容を扱う予定はありませんので、公開することとしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(了承)

宮原座長： ありがとうございます。それでは公開で議論を進めてまいります。

もう1点、議事録の署名委員ですが、前回は岩間委員にお願いしておりましたので、五十音順に姥浦座長代理にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

姥浦座長代理： はい、よろしくお願ひします。

宮原座長： どうぞ、よろしくお願ひします。

## 2. 議 事

### (1) 勾当台エリアビジョンの方向性について

宮原座長： それでは、次第に沿って、議事を進めてまいります。

次第の2番です。議事の(1)勾当台エリアビジョンの方向性に入っていきます。今回も資料がたくさんございますので、3つに分けて進めていきたいと思ひます。

まずは前回の懇話会の意見を整理した資料1と、ビジョンの素案として資料2がお手元に配布されておりますので、前回の振り返りも兼ねまして、皆さんからご意見をいただきたいと思ひます。

次に、今回新たに示されている、資料3、4、5に沿って、ビジョンの方向性について議論を行い、残りの時間で全体を通して意見をいただいきたいと思ひますが、よろしいでしょうか。

(了承)

はい、ありがとうございます。

では事務局からご説明をお願いいたします。

事務局： それではご説明申し上げます。先に資料1、それから資料2についてご説明申し上げます。恐れ入りますが、着座のまま失礼いたします。

まずは、資料1をご覧ください。こちらは、7月の第1回懇話会で皆様から頂戴したご意見等を、地図上にプロットして整理したものとなっております。多くのご意見いただきまして、誠にありがとうございました。

地図とご意見につきましては、色を3色に分けて記載しておりまして、濃い緑色、これが勾当台エリアや定禅寺通に関するもの、黄色が仙台駅周辺に関するもの、黄緑色が勾当台や仙台駅以外のエリアに関するものとなっております。また資料1の下のほう、黒い線で囲まれた4点のご意見につきましては、都心全体に関するご意見ですとか、本市と外部との関係に関するご意見となっております。

ご意見はそれぞれ、①から㉗まで番号を付しておりまして、キーワードとなる部分を赤字

で強調しております。本日はこの中よりいくつか、抜粋してご紹介をさせていただきます。

まず左上の①・②でございます。仙台駅周辺との差別化を図っていくことに加えまして、仙台の象徴となるエリアをどのようにつくっていくのが重要であり、勾当台エリアは市民や多くの方が「使う」「楽しむ」、そういうイメージの場所なのではないかというご意見でございますけれども、勾当台エリアビジョンの検討やその後の展開の検討におけます、骨格となるようなご意見ではないかと捉えてございます。

また、③・④に記載の「公共空間等の利活用」、また⑤に記載の「文化発信の拠点」、そして⑦の「インキュベーション」、⑨の「感度が高く、それなりの年齢層の方が楽しめる大人の街」など、勾当台エリアのあり方を考える上で重要なキーワードを多数頂戴いたしました。

⑩の「定禅寺通活性化検討会のビジョン・構想との調整」につきましては、今後の調整とはなりますが、勾当台エリアビジョン中間案をとりまとめる前に、私共、事務局の方で検討会の幹事会にお伺いしまして、勾当台エリアビジョンの策定趣旨や検討状況をご説明申し上げて、直接、ご意見を頂戴してまいりたいと考えてございます。

その下の⑪・⑫でございます。エリア設定につきまして、定禅寺通の晩翠通より西側までをエリアに含めるべきとのご意見をいただいております。後程、資料2で改めてご説明を申し上げますけれども、エリアにつきましては西公園通境界まで、当初より西側へと広げるということにしたいという風に事務局としては考えておるところでございます。

資料の右上にまいりまして、⑬の「職住近接」、⑭の「都心居住者のライフスタイルをベースとする考え方」をはじめ、⑯・⑰の「仙台駅周辺に集まる人を回遊させる極が必要で、そのために、アーケードから定禅寺通・市民広場、市役所までをどのようにつなげていくのか」という課題。⑱の「地元感や居心地の良さを持つ勾当台エリア」と、黄色の⑲「消費の華やかさを持つ仙台駅周辺」とが、黄緑色の⑳や㉑の「都心全体としてのエリアのつなぎ方」の中で、「様々なエリアとともに位置付けられていく」とか「歩き回れるまちを目指していく」という考え方など、勾当台エリアのあり方の検討に留まらない、非常に重要なご意見を頂戴したところでございます。

そして、資料下側の㉒から㉓のご意見でございます。こちらにございますように、個々のエリアを都心全体との対比の中で考えていくことの重要性、ひいては、外部との対比の中で、外部から見た仙台を意識し、都心やエリアのあり方を検討することの重要性につきまして、ご指摘をいただいたところでございます。

これらにつきましては、勾当台エリアビジョンはもとより、新総合計画や都市計画マスタープランの検討にもつながるご指摘であると受け止めてございます。

改めまして、貴重なご意見を頂戴し、誠にありがとうございました。

事務局：引き続き、資料2のご説明を申し上げます。

資料2でございますけれども、こちらは、7月の第1回懇話会にお示しした資料をベースといたしまして、頂戴したご意見等を踏まえた加筆・修正を加え、素案として整理したものでございます。

恐れ入りますが、前回懇話会で申し上げたご説明と、かなりの部分で重複してまいりますことから、今回は加筆・修正を行った部分に絞って、ご説明を申し上げます。

1枚おめくりいただきまして、1ページの「目次」をご覧ください。

勾当台エリアビジョンでございますが、全6章で構成したいと考えてございます。第1章・第2章が、前回の懇話会でご説明申し上げ、ご議論いただいた内容となります。そして第3章・第4章のところで、今回の懇話会でご議論いただく内容を記載してまいります。その後第5章として懇話会の開催経過を、最後に第6章として委員名簿を掲載したいと考えてございます。なお、第3章・第4章につきましては、今回は資料2とは別に、A3版の資料をご用意しておりました。こちらは次のテーマとして後程ご説明申し上げまして、ご議論いただきたいと思いますと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは資料2を1枚、おめくりいただきまして、3ページをご覧ください。3ページでございますが、前回もご議論いただきました、勾当台エリアの範囲についてでございます。

濃い緑色で示している部分を勾当台エリアとしてお示ししてございまして、前回の懇話会で頂戴したご意見を基に再度、検討をいたしまして、エリアの範囲を西側へと、前回は晩翠通境界までとしておりましたところを、西公園通境界まで広げたいと考えてございます。

理由といたしましては、姥浦座長代理、岩間委員、高山委員よりご意見を頂戴いたしましたとおり、定禅寺通を介しまして、空間的にも、地元のまちづくり活動としても、昔からの勾当台と、西公園周辺との間には連続性があるというものでございますが、都心を俯瞰して見た場合の、他のエリアとのつながりという意味でも、今後、勾当台周辺と西公園方面との結びつきを強めていくという上で重要なゾーンとなりますことから、晩翠通の西側も含めまして、将来に向けたビジョンを示してまいりたいと考えてございます。

また、前回の懇話会で舟引委員よりご指摘をいただきましたが、エリア北側周縁、こちらでの都心居住者の集積ですとか、東側や南側周縁などでの周辺とのつながりを強く意識すべく、勾当台エリアの濃い緑色の周囲に、薄く黄緑色に着色をいたしまして、勾当台エリアに強く関係してくるゾーンというものを明示したいと考えてございます。

なお、3ページの一番下に書いてございますけども、勾当台エリアビジョンという名称につきましても、「定禅寺通」という言葉を追記すべきか否か、現在検討を進めております。この後のご議論の中で、エリアの範囲につきましてネーミングも含め、改めてご意見を頂戴できればと考えてございますので、よろしくお願いいたします。

次の4ページ目以降は、前回懇話会の資料に、エリア設定の変更や各種計画検討の進捗に対応した修正を加えたものを掲載してございます。時間の都合もございまして、ご説明は割愛させていただきますが、1点だけ、17ページをご覧くださいと思います。

17ページでございますが、前回の懇話会におきまして、このエリアのインキュベーション機能についてご意見を頂戴したところございまして、それを受け、改めてデータを調べたものでございます。本市の産業振興事業団が運営しております、仙台市起業支援センター「アシスタ」というものがございまして、そちらの利用者の方々の開業実績につきまして、所在地別、業種別に整理したデータになってございます。グラフに出てまいります「勾当台エリア周辺」は、一番上の縦棒グラフの中では緑色で、「仙台駅周辺」は黄色で表してございまして、それぞれの範囲は、17ページの下の方に掲出をしております。

上段の縦棒のグラフでございますけども、エリアごとの開業件数をお示ししております。緑色の勾当台エリアでは、過去3年度で29件の開業がございましたが、オレンジ色の仙台駅周

辺は 16 件となっており、勾当台エリア周辺では、仙台駅周辺の 1.8 倍の開業実績となっており、29 件という数でございますが、仙台駅周辺を除いた若林区全体や、泉区全体と同水準でございまして、起業・開業の場所として勾当台エリアが多く選ばれているということを示しているのではないかと考えられます。

17 ページ中央の帯グラフでございますが、こちらは勾当台、仙台駅それぞれのエリアと、全体の開業業種の内訳をお示ししてございます。

上から 3 つ目の帯グラフが勾当台エリア周辺でございますが、赤色の飲食業、それから右側の濃い緑色の美容業になっておりますが、その比率が非常に高くなっております。また、真ん中のオレンジ色、サービス業でございますけれども、この中には、一般的に「クリエイター」と呼ばれるような、映像制作やコピーライターという業種が含まれることが特徴として挙げられます。なお、一番右の 3.4% とある濃い青色のところ、こちらは建設業でございますが、内容としてはリノベーション不動産販売という業態でございました。

前回の懇話会の中で、姥浦座長代理より、エリアに家賃が安く古い物件があるということが、インキュベーション的な役割を担うことにつながっているのではないかとのご指摘をいただきました。このデータのみをもって、ご指摘を裏付けるものとまでは、必ずしも言い切れないかもしれないところですが、ご指摘のような傾向が見える結果となっております。

なお、少しめくっていただいた 23 ページ目以降、第 3 章以降の部分になりますが、こちらは別途、資料 3 から資料 5 としてご用意しておりまして、この後の議論の次のテーマとしてご説明申し上げたいと思いますので、よろしくをお願いします。

私から資料 1、資料 2 のご説明は以上でございます。

宮原座長： ありがとうございます。ただいま、資料の 1 と 2 についてご説明がありましたけれど、今日、特にこちら資料ではエリアの範囲ですね。素案の 3 ページでご提示いただきました。それからビジョンの名称についても、エリアの範囲を鑑みて、定禅寺通の追記などを検討されているということもあります。改めて前回、皆さんから貴重なご意見をいただいたものも資料の 1 のほうで列挙されておりますので、さらに付け加えていきたい部分、またご質問でも結構です。ご意見をいただきたいと思います。

前回の議論はかなりフリートークで、可能性であるとか、仙台という都市の位置付け、日本から、世界の視野から見ていったものも必要だということで、それから勾当台がどうあるべきかというイメージ、また今までのエリアのイメージについても、ご意見をいただいております。それからエリアとほかの地域とのつながりということで、定禅寺通や仙台駅周辺など、別の地域についても言及いただいたと思います。また、課題もいくつか出ていたと思いますので、改めて何かご意見があればと思います。

いかがでしょうか。姥浦先生いかがですか。

姥浦座長代理： 資料 1 は非常によくまとまっていて、いいんじゃないかなという印象を受けました。それから名称ですが、これも前回申し上げましたけれど、「勾当台エリア」だけよりは、定禅寺か定禅寺通か、どちらでもいいですが、語呂的には定禅寺ぐらいにしといてもよいのかな。でも正式名称は定禅寺通か。どちらかちょっと分からないですが、入れた方がよいんじゃないかな

いかなということでございます。

理由は、勾当台というと勾当台公園をパッと思い浮かべられると思いますが、そこだけではなくて、その定禅寺通のこちらの西側の方まで含めて、地域として考えるとなると、定禅寺通という言葉を入れた方がよいと思いますし、それから対外的にも定禅寺通という言葉の方が、認識されているという部分もあります。これから売り出していきたいのはどこかということ考えた時、やっぱり定禅寺通かなと思いますので、色々、総合的に考えると、ちょっと長くはなりますけど、「定禅寺」を入れた方がよいという意見でございます。以上です。

宮原座長： ありがとうございます。それでは舟引先生、お願いします。

舟引委員： 資料2についてもよろしいでしょうか。

宮原座長： はい。資料2の素案ですね。

舟引委員： 色々なデータをいただきまして、ありがとうございます。やっぱり、ちゃんとデータを読んで、そこから方向性なりアウトプットを導き出していないと、あまり意味がないので。

そうやって考えていくと、例えば13ページのところで見ると、居住者数が駅周辺より増えていて、その年代がその下の棒グラフに、男性、女性ともありますが、30代から50代ぐらいと見るんですかね。そうすると、これから何を導き出すのかというのが、資料をざっと見てもピンと来ないんです。ターゲットとすると、30代・40代の働いている人達がやっぱりターゲットの1つだし、この人達に「楽しい」と「住んでいてよい」と言わせることによって、さらに人が集まってくるという、そういうロジックが通じるかというのがあります。

それから就業者数は、これはちょっと仙台駅前の方が増えていますが、それでも増加傾向にある。そうすると、その前の12ページのビルの建て替えの話と就業者数というのを絡めて考えていかないといけないかなと思います。そうすると、今度は17ページに飛ぶと、横棒の真ん中のグラフがあって、仙台でやっている起業・開業件数の比率がエリアごとに書いていて、勾当台エリア周辺、当然、飲食と美容が多い。美容が多いというのは、なかなか面白いなと。国分町が含まれるからなのかもしれませんが。

というところで、現状はこうなっているのだけど、将来ここにどんなイメージをするのだろうか。全体を見ると、製造業がないのは当然ですが、情報通信とかいうところは、駅にも勾当台エリア周辺にもなくて、この人達は一体どこに立地しているのだろうか。このエリアの中でこれから新たな床を、それもかなり広い、それこそ県民会館の跡地とかいうところにどんな業務床を持ってくるか。姥浦さんがおっしゃったように、古くて安いところにインキュベーションで入る人と、ちゃんとした床にちゃんとして入る企業と両方あって、そこはどういう風にするか。

例えば、ものすごく極端な例で恐縮ですが、渋谷では東急が大きな再開発をやって、川沿いの方にある物件で。超高層ビル1棟に全部グーグル本社が入った。本当にビル1本に丸々入ったので、そういうのを少し、一部でいいから導入していきたい。コロナもあってなかなか

か、現実には持ってこられないかもしれないが、そのような、ちょっと壮大なことを盛り込んでいくようなところを考えながら次のビジョンにいかないと、言葉が踊ってしまうのかなと。

もう1点、今度はちょっと疑問な点ですが、ちょっと戻りますけど15ページの歩行者数が減っている。これは要因を考えておかないといけないと思います。住んでいる人が増えていて、就業者数が増えているにも関わらず、歩行者数が減少しているのは何でなのか考えておかないと。それがひよっとしたら、このビジョンの答えになるんじゃないかという気もするんですが、ちょっとそこはどうやって分析していいのか出てこないんですけど、資料から読み取れるように、そこを上手く次のビジョンへとロジックをつなげて行って欲しいと思います。以上です。

宮原座長： ありがとうございます。

データから将来を読んでいくということで、今、舟引先生からご指摘、色々いただきましたけれども、私も17ページの、先程の情報通信のグラフが気になりました。全体では、4.0%と一番少ない事業ですが、これは市内のどの辺に位置しているのか、事務局の方でコメントがありましたらお願いします。

事務局： はい。具体的に何件という数値は今、手元に持ち合わせてないのですが、東北大学の中に多く位置しているという状況です。

宮原座長： 東北大学さんですね。はい、わかりました。

あと、最後のところで、「人が増えているのに歩行者が減少している」ということについて、何かわかるようなことがあればと思いますが、いかがでしょうか。

事務局： はい。本日お示ししている資料、前回の資料の内容をまとめたものとなってございますけれども、まずはこれまでのデータ、現状のデータを含め並べて、そこから見える課題ということで、書かせていただいています。それが何故こうなっているのかですとか、そこから将来をどう読み解いているのかといったところの分析までは、すみませんが、ちょっとまだ至っていないというところもございます。引き続き、分析していきたいと思います。

宮原座長： 今日委員の皆さんからご指摘色々いただいたので、それらもキーになるようなところとして、またお調べいただければと思います。

では高山さん、いかがでしょうか。

高山委員： はい。舟引先生がおっしゃっていたのと連動しまして。少し脱線するんですが、商工会議所の方で、販路拡大の商談会をやっていました。その中でサプライヤーさんにセミナーを開催している際に、色々うちの専門家の先生がアドバイスしているところがありまして。

その中で、売れる商品開発ってどうするのというところで、やはり素材の選択、地域を代表する素材とか、その土地の伝統的な材料を使用するというのがまずありました。その辺、

まちづくりと非常に関連する部分があると思っています。あとプロダクトインとか、マーケットインというところで、プロダクトインなんかですと、生産者のこだわりを持ったモノづくりの部分で単なる独り善がりにならないようにとか、マーケットインでも、作り手の想いだけで作らないとか、指摘されていました。また、そういった商品を広めていく上で、まずは自家消費商品を作るべきというアドバイスもありました。

姥浦先生をはじめ皆さんからのお話でも、まちづくりと商品開発は非常に似通っている部分があるのかなというところで、これからビジョンを考えていく時にその辺も考慮しながら考えていかなきゃいけないかなと感じていました。

あと、エリアの範囲と名称についてですが、エリアの範囲については、資料に示されているエリアでよろしいかと思います。このビジョンは、関係者だけのビジョンなのか、それとももっと広く市民とか、他の地域の方たちにも示していくビジョンなのかによって、名称も違ってくるのかなと思っていました。というのは、ブランディングとかを考えれば、姥浦先生もおっしゃっていたように、定禅寺通というのが仙台のシンボリックなものであり、どなたでも仙台といえば定禅寺通というイメージをお持ちなので、そこを強く打ち出していく必要があるかと思っています。逆に勾当台というのを入ってしまうと、同じようなエリアの中に名称が2つあったりすると、人によってはよく分からなくなってしまうところがあるので、その辺をどういう風に、どんな対象に対して発信するのかによって、名称の持ち方というのが変わってくるのかなというのを感じています。

あと、定禅寺通と勾当台って、市役所から東側のエリアが勾当台で、西側が定禅寺通みたいな感じでイメージを捉えると、定禅寺通・勾当台ビジョンとなっても、2つのビジョンが一緒になったといいますか、エリアを一体で捉えた方がよいのかもしれないですが、まちの性格が全然違うと思うので、そこを分けて考えながら名称も1つに、定禅寺通で一括りにするのか、姥浦先生からお話があったように、定禅寺通・勾当台という名称を使って、両方合わせた方がいいのか、その辺を皆さんで、議論できればいいのかなと思いました。

宮原座長：ありがとうございます。

高山さんからは、一体誰に向けてのビジョンなのかというところで、少し問題提起をいただきました。外向けであるのか、それとも市民ないしはエリアの関係者の人達といいますか、そういったところでの捉え方によって、少し名称も異なってくるのではないかなということですが、

それでは、岩間さん、先にご意見をいただいてもいいですか。

岩間委員：私は定禅寺通と入れた方がいいと思っています。何故かといえば、やっぱり、面としてエリアの価値を上げていくということを議論していると思うので、そういった時に、定禅寺通はやはり、シンボリックストリートになりうる場所であり、そういう意味では、みんなが想起できる定禅寺通がビジョンの名前に入っていた方が、エリアを想起しやすいのではないかと思います。

他にも色々ありますがちょっと考えがまとまっていないので、また後でお願いします。



宮原座長：舟引先生、どうぞ。

舟引委員：外の人、仙台の外の人を対象にすると、勾当台公園って誰も知りません。定禅寺通は、ここ名前が売れています。さっき言わなかったのですが、18ページのところに認知度の話があって、牛タンが一番で、定禅寺通が下の方という。これは結果としてそうなっているのと、ちゃんとそういう風にセールスしているのかどうか、というのがある。

シティセールスとかで観光客を呼ぶ時に、「定禅寺通と緑」より「牛タン」が先にどうしてもなくなってしまっていて、でも外に売り出すつもりでこのビジョンを活かしていくのだったら、勾当台公園よりは定禅寺通の方が、イメージが沸きやすいですし、仮に外の人が勾当台公園ってどんな所となって調べてみて「何だ、広場か」というのと、定禅寺通に行ってケヤキ見てびっくりするのとを比べると、効果としてはずいぶん違うので、そこを見ながら決めていけばよいのではないかと思います。

宮原座長：今のご意見は高山さんの問題提起に係る部分かと思いますが。姥浦先生いかがですか。

姥浦座長代理：勾当台を消すというところまでは、私あまり考えていなかったもので、ドラスティックなご意見だなと思いました。いずれにせよ定禅寺とか定禅寺通は入れた方がよいと思います。先程申し上げたとおりですが、少なくとも高山委員のお話を伺っていると、先程、「勾当台・定禅寺」と申し上げましたが、「定禅寺・勾当台」くらいのイメージが少なくともあって、さらに議論次第では「定禅寺」とかにするというお話なのかなという印象を受けておりました。

それと次に、舟引先生のお話ですけど、要は、居住者はエリアの裏の方で増えていて、外からの人達が、あまりこっちに来なくなっているというのが、歩行者量の減少かなと思っ  
ていまして。それは、一民間企業の方をターゲットにするわけじゃないけども、やっぱり「デパート力」が弱まってきているというか、そういう部分もあるのかなと。ですから、今までは三越さんの辺りにそれなりの数の人が来ていて、駅からあそこまで歩いて来ていた人達がたくさんいたのに対して、だんだんと目的が「デパート」じゃなくなってきた。一方でパルコとか、ああいうのは全部駅前にあるという、そのあたりの、外からの人達の流れの減少があるのかなという印象を受けています。ただ、その外からの人達が、私も10年前に来たばかりなので、よく分かっていないのですが、昔から駅からこっちまで歩いていたのか、それとも勾当台公園ぐらいでバスを降りて、片道歩いて行って、駅からまた帰っていたのかとか、そのあたりって、住んでいらっしゃった高山さんあたりが詳しいような。

昔の人達ってどういう行動、休日の行動をしていたのかを教えてくださいたいです。

宮原座長：このメンバーでは、地元によくいらっしゃる高山さんが一番お詳しいですね。

姥浦座長代理：やっぱり、仙台に来る若い子に聞いても、定禅寺通の方まで行くのは遠いと、そこまでの魅力があるわけじゃないということを使うのです。だから、1つはこっちのエリアの魅

力が落ちてきているということと、あと仙台駅が元気になってきているということ、いくつかあって。昔はどのような行動をされていたんですか。「遠い」という観点から。

高山委員： 以前、40年くらい前だと、まだ郊外にそれほどお店もなかったと思いますので、中心部に家族揃って車で出かけてくるというのが多かったかなと思います。なので、今は考えられませんが、休日は駐車場がどこも混んでいて、車を入れるのに父親だけが大変な想いをしていた記憶があります。それと現状を比較しますと、本当に休日なんかは車の交通量はほとんどなくて、バイパスよりもバイパスのような、そんな状況で。

特にコロナ以降、商売されている方も、中央と郊外と両方で経営されている方が、全部郊外にシフトしちゃって、郊外のほうで利益を上げているというケースも増えてきています。だから、今は車の方は本当に郊外に行かれて、中心部はどちらかということ、地方から出たいている方が、カバーして下さっているのかなというような感じもします。通行量調査にも鮮明に出ているんですが、東西自由通路とか、あと駅周辺が増えていて、西に、北西に行けば行くほど、減ってしまうと。

ただ、全体の通行量の総量はさほど大きく減少している訳ではないので、そういう意味では、人の集まる場所が移ってきているのかなという感じがいたします。40年前くらいは藤崎や三越に人が並んでいたのですが、今はどちらかということ、皆さん駅周辺に集まっているような気がします。

姥浦座長代理： もうちょっとよろしいですか。

車を置いて、それで藤崎とか三越に行って、それでまた車で帰ってしまうみたいな、そんな動きだった訳ですか。駅の方にはあんまり行かず。

高山委員： 客層として、三越派と藤崎派とか、そういう好みもあつたのではないかと思います。昔だと、丸光派とか、十字屋派とかもありまして、エスパルはなかったんですけど、そこはお客さんも分かれていたのかもしれないですね。だから、藤崎に行く方は藤崎周辺で、三越に行く方は三越周辺で、丸光に行く方は丸光周辺で、もしかすると、あまり回遊せずにそのエリア中心で動かされていたかなという感じは、我が家のことを考えるとそんな感じですよ。

宮原座長： ありがとうございます。昔と今とでは人々の動きが、変わってきているということですね。

では岩間さん、お願いします。

岩間委員： 現場の人なので、地下鉄に乗って、毎日通勤して、歩いてっていう感覚でのお話ですが、この素案の3ページに「都心居住者の集積を意識」という文字があります。そこに、ちょっと引っ掛かりを覚えて、なんでだろうと考えていました。

実際に居住者は増えていると思いますが、そのほとんどはタワマンとか、それこそ仙台駅すぐ近くのオフィスで働いているようなサラリーマン層の人なんじゃないのかなということを感じていて、そういう中で歩行者数が減少したのは、姥浦先生がおっしゃっていたとお

り、外からの人が減ったというのもすごくあると思います。皆さん、ほとんど朝起きたら地下鉄に飛び乗って、仙台駅に出て、ほぼ仙台駅の近くで過ごして、夜遅くにまた家に帰ってくるということをしているのではないかなと思って。そういう状況で、都心居住者の集積を意識した方がいいんですけど、その実際に住んでいる層と、目指しているビジョンや方向性みたいなのがずれていると、やっぱり仙台駅の方が便利だし、合うからそっちに行くわってなりそうな気がするなっていうことを考えていました。その辺、どうなんでしょう。

宮原座長：事務局から、いかがでしょうか。

事務局：舟引委員のご意見とかにも対応しますし、今の岩間委員のご意見にも対応すると思うんですが、居住者はかなり増えています。世代としては舟引委員からご指摘いただいたように、20代から40代、50代の層ですので、一番バリバリ働かれている世代だろうと思います。こういう方々の職場というのが、勾当台・定禅寺通の近辺かどうかはわかりませんが、少なくとも働いた後に夜、帰ってくる。朝とか夕、あるいは休日にご自宅に居られて、あるいは外から帰ってこられたときに、定禅寺通の方に出て、緑であったり、空間を楽しみたいと思われるようなものを、つくっていかねければいけないのではないかと考えています。

ポテンシャルは間違いなくあるエリアですし、増えている層の方々が夜、まちに出てくるとか、子育てされている方であれば昼とか、この辺りの就業者であれば、昼はランチなりミーティングなりで、夜は夜でまちに出てくるとか。そういう状況をつくり出すための空間の使い方とか、魅力あるような場所をつくれないうか。

歩行者は駅の方にだいたい集まっているのですが、勾当台や定禅寺通の辺りにお住まいの方、あるいは働いておられる方が、確実に増えているということはあるので、そういう方々に空間に出ていただけるような魅力というのか、仕掛けというのかわかりませんが、そのようなことを上手く、つくっていくということは大事なかなと思います。

起業についても、仙台の企業はなかなか、ITの企業とかはまだ少なく、飲食とかが多いのですが、企業誘致などではやっぱりIT関係が非常に増えています。そういう方々は、ビジネスの一部を切り出して、舟引委員もおっしゃったように、仙台駅近くの大きいオフィスにワンフロアで大きく借りて、お入りになります。一方で、勾当台・定禅寺通の辺りは、建物が老朽化しているということも背景にあるかと思いますが、家賃が仙台駅と比べると安いので、若い方は進出しやすいという状況があつての、駅前よりも起業件数が多いという結果だと思いますので、そういう状況を活かしたような業態の呼び込みとか、先程、どういう方にセールスを仕掛けていくのかという高山委員のお話もありましたけれども、そういうことを、これもまた舟引委員のお話ではないですが、データをうまく活かして、これから先の勾当台や定禅寺通の魅力の創出につなげていきたいと考えております。

宮原座長：ありがとうございました。

はい、岩間さん。

岩間委員：今のお話にすごく共感できて、職住近接というのは本当に、これからトレンドになってい

くと思いますが、「ゆとりのある職住近接」みたいなものを売り出していくことができるエリアだと思います。これは私が日頃、郊外の居住地で活動しているからこそなんですけど。

Greenest を掲げながらも、現実として今後5年、10年で起きていくという話なのですが、郊外も昔、将来を夢見てケヤキとかをいっぱい植えたけど、実際のところ根上がり維持がしきれないから、いっそ抜きたいというような声とかがあったりとかしていて。それって今後どんどん増えていく話だと思うんです。

でも別に、郊外に住むことを否定している訳ではなくて、まちなかでちょっと高いお金を払ってでも住みたいって、一体どういうことなのかなっていうのを考えた時に、さっきのようなゆとりのある職住近接みたいな打ち出し方をすると、すごく納得感があるのかなと思いました。

宮原座長： ありがとうございます。

皆さんのお話からこのエリアのイメージがだんだん出てきていると思います。私もちょっと質問です。3ページのところで、この濃いグリーンと、それから先生方の色んなお話から周辺のエリアも意識していくということですけども、周辺の薄いエリアというのは、何か呼び名があるんですか。勾当台エリア周辺エリアになるのでしょうか。

事務局： 関係性を表現したものでして、特に名前は定めておりませんでした。

宮原座長： じわじわと周辺に広がっていくというイメージなのかもしれないですけども、3ページの地図で、南のほうに関して言うと、定禅寺通が広瀬川から東へ、愛宕上杉通まで1本走っています。定禅寺通は、勾当台エリアの軸になる通りという形で、きちんと位置付けられると思います。それからその軸になる定禅寺通が、エリアと様々な商業施設とか、色んなエンターテイメントに関わるようなスペースとして、非常に勾当台エリアとしての個性を強めていくという役割も出ていると思うので、私も定禅寺通という名称を加える方が、それがより明確になるかなと思いました。

それからもう一方、この地図でいきますと、西公園の方までこのエリアを広げることで、広瀬川が意識されます。勾当台エリアは広瀬川の左岸に位置しているということがイメージできると思います。よく、他所の人から勾当台や定禅寺通りの位置を尋ねられたときに、なかなか説明が難しいところがありますね。勾当台エリアを全国区で地名度の高い「広瀬川」との位置関係で紐づけていくと、他所の人にも分かりやすくなるのではないのでしょうか。広瀬川の左岸から東に延びているケヤキ並木の定禅寺通があって、並木を抜けると勾当台公園が広がる。その周辺のエリアが私たちの勾当台エリアだよという、そういう地理的なイメージが湧くような形でのエリア取りをしていくのが重要だと思います。そこには今、岩間さんがおっしゃったような職住ゆとりのある空間が広がっているイメージですね。休みになったら、乳母車を押した若い夫婦がカフェに寄ったり、夜、仕事終わった人同士で、明かりのついた素敵なレストランや、バーとかでお酒を飲みながら語らいあうとか、そういったシーンが広がるようなイメージが浮かびます。昼も素敵だし、夜もまた素敵だっていうエリアが、広瀬川の左岸の勾当台エリアに広がっているというのは、市民的にも、対外的なイメージ的

にも、私はよいと思います。観光でも、観光客の方達も、どんな場所なのだろうかということで、より興味を示して下さるのではないかと思うので、イメージ付けというのは大変重要かなと思いました。

他に、皆さんの方からございますか。

それでは、資料の3から5に関しまして、またご説明をしていただきます。事務局で今回、新たな内容を示していただきますので、これについてまた議論を、説明の後にしたいと思います。

では、ご説明をお願いします。

事務局： それではご説明を申し上げます。お手元にA3版2枚組の資料3をご用意ください。

まず、1枚目の左側の1番、2番につきましては、主に勾当台エリアビジョンの構成に関するご説明を記載してございます。

1番の勾当台エリアビジョンの内容でございます。

前回の懇話会で頂戴したご意見や、後程ご説明する都心における勾当台エリアのあり方、そして、資料2にございました勾当台エリアの位置付け・現状等に基づきまして、目標を示す「エリアコンセプト」それと、そのイメージを視覚的に示す「エリア構想図」の、この大きく2点を作成してまいりたいと考えてございます。

2番のエリアコンセプトの構成でございます。

前回の懇話会では、左の箱囲みでございます(1)から(3)までの、ビジョン策定の3つの視点をお示ししておりました。これら3点につきましては、(1)の「勾当台エリアのあり方」これをベースといたしまして、他の2点にも関係する内容を、右側の「エリアコンセプト」という形で掲げてまいりたいと考えております。

その下に、コンセプトを受ける形で、(2)と(3)を基に、民有地を含むエリア全体に対する「勾当台エリアのまちづくりの理念・方向性」をお示するとともに、その中に、黄色の囲みのおり、「公共施設・公共空間再整備における理念・方向性」を特記したいと考えてございます。また、今後、勾当台エリアのまちづくりを進めるにあたり、公共・民間の取組みが結び付き、相乗効果を発揮するよう、「協働によるビジョンの実現」という考え方を明記したいと考えてございます。

資料の右側にまいりまして、3番でございます。都心における勾当台エリアのあり方、コンセプトの基となる考え方の案でございます。

吹き出しの中には、先程の資料1、前回の懇話会でのご意見から抜粋したキーワードを記載しておりまして、これらのキーワードを基に、仙台駅周辺との対比を行いながら、勾当台エリアのあり方の案をお示ししてございます。

地図の下のほうにまいりまして、まず、オレンジ色で表題を書いてございます、仙台駅周辺・青葉通付近の主な特性・あり方でございます。

仙台駅周辺には、ビジネスや広域交流、交通の拠点として、業務や商業等の機能が高度に集積しておりまして、人・モノ・情報が全国から集まり、東北各地へ展開していく、経済・社会活動のハブという特性がございます。この特性に基づき、二重丸の部分ですけれども、仙台駅周辺等のあり方といたしまして、「東北の中枢都市・ハブ」という強みを最大限に活かし、

都市間競争力・国際競争力を意識した“グローバル志向”の発展を目指す」という方向性を打ち出してまいりたいと考えてございます。

一方で、緑色で記載の勾当台エリアでございますが、居住や業務、商業、市民活動等、多種多様な都市機能が同居しており、また仙台の都市イメージにつながるような、数々の資源が色濃く存在しているという特性がございます。

①の勾当台公園や定禅寺通等の「みどり」、また②の変化に富んだ街並みを歩きたくなる「多様性・心地よさ」、また③の文化・芸術・学術、そして④の人々の「交流」、そして⑤の、これまでの変化の積み重ねとしての「歴史や資産」、これからの変化への対応力となる「居住者や就業者の増加」といった、現在策定中の新たな総合計画における都市個性にも密接につながる特性が、この勾当台エリアにはあると考えております。この特性に基づきまして、緑色の二重丸の部分、勾当台エリアのあり方といたしまして、「多機能性や都市イメージの集積という強みを最大限に活かし、仙台らしさを意識した“グローバル志向”の発展を目指す」という方向性を打ち出してまいりたいと考えてございます。

1枚おめくりいただきまして、左上2ページ目上段の4番、エリアコンセプトでございます。

あくまで仮のものでございますが、「The Greenest “Center” ～『仙台』を生み出すところ～」というものを、勾当台エリアのまちづくりのコンセプトに掲げてはどうかと考えているところでございます。

箱囲みの中の、3つめの○にございますとおり、仙台が今後、新たな総合計画の下、新たな杜の都とも言うべき“The Greenest City”、これを目指す中におきまして、勾当台エリアはまさにその中心として、都市機能や都市イメージが交差し、公共施設や公共空間、民間施設等も含めて、シームレスにつながるセンターで、日常と非日常との交わりの中で人々の滞在を促進し、またグローバルな空間や賑わいを創出する、それらを仙台の価値として、国内外の多くの人々を魅了すること、これを目指してまいりたいと考えてございます。

また、このコンセプトの案を受けまして、左下の5番、勾当台エリアのまちづくりの理念・方向性でございますが、「多彩な都市機能やエリアの資源、人・モノ・価値などの掛け合わせを軸に、求心力と創造力の源泉となる」ということを理念といたしまして、「ミックス」というキーワードを方向性として示すことで、都心全体に対し、仙台らしさを供給してまいりたいと考えてございます。

右側にまいりまして6番でございます。こちら公共施設・公共空間再整備における理念、方向性でございますが、言い換えますと、公共施設等がこのエリアに対して、どのような役割を果たしていくべきか、ということになるかと存じます。その中において、公共施設等の持つ様々な価値の中でも特に、「利用価値」の向上を図り、人々の滞在や活動の目的地となることを理念とし、「体感」というキーワードを方向性としてお示すことで、公共施設・公共空間は今後、人々の活動や滞在の舞台となることを目指したいと考えております。

また、その下の7番、協働によるビジョンの実現といたしまして、エリアマネジメントの推進、民間活力の積極導入の2点を明記したいと存じます。この2点の協働によりまして、公共、民間それぞれが単独では生み出すことのできないものを生み出し、ローカルなもの、グローバルなものへと、高めてまいりたいと考えてございます。

事務局：続きまして、これらのコンセプト等を地図上に落とし込んだものが資料4、エリア構想図等でございます。こちらのご説明を申し上げます。

まず、左上の凡例の部分をご覧ください。

オレンジ色の点線で黄色いものがございますけれども、こちらは重点ゾーンを示してございます。このエリアのまちづくりを牽引することを目的といたしまして、早期の施策の具体化に向けて検討を進める重点ゾーンとして、市民広場周辺、そして定禅寺通境界の2つを設定したいと考えております。

その他の凡例として、黄色の破線のない普通の黄色の円は、エリアのまちづくりの「ポイントとなる公共施設・公共空間等」、また点線の吹き出しにつきましては、「今後の施策展開のイメージ」をお示しするものでございます。そして、緑色の矢印が、エリアと周辺とのつながりを表してございます。

このうち、点線の吹き出しの「施策展開のイメージ」につきましては、現段階での大まかな方向性を記載しておりまして、今後、中間案、最終案の各段階におきまして、記載内容の具体化を進めてまいりたいと考えております。

続きまして、重点ゾーンより順次ご説明してまいります。資料の右側でございます黄色の吹き出し、市民広場周辺ゾーンをご覧ください。

市民広場周辺ゾーンにつきましては3点、方向性を記載してございます。

1つ目が、このゾーン全体と市民広場を念頭に、「The Greenest “Center” のまさに中心として、賑わいや空間の連続性を高め、本市、そして勾当台エリアを代表する『協働の広場』をつくる」というものでございます。

2点目が、主に新本庁舎の低層部分に配置予定の市民利用空間で繰り広げられる、「人々の多彩な活動の様子を周囲に見せるということで、その光景がさらに多くの人々を惹きつける循環を生む」というもの。

また3つ目が、主に勾当台公園の憩いのゾーンを念頭に、「河岸段丘などの地形や地名などの歴史とともに、都心のみどりに触れ、人々が質的な豊かさを実感できる杜の都の象徴となる」というものでございます。

続きまして、資料の下のほう、右下のほう、定禅寺通ゾーンでございます。

こちらにつきましても3点、方向性を記載してございます。

1つ目が、主に定禅寺通とその沿道のハード面を念頭に、国土交通省などでも積極的に進めております、「居心地が良く歩きたくなるまちなか形成の先進地として、人々の滞在と活動を生んでいく」というもの。

2つ目が、ソフト面を念頭に、「定禅寺通という一種のブランドを活かしながら、主に、地域の方々を中心とする定禅寺通活性化検討会など、多様な主体との協働まちづくりを進める」というものでございます。

3つ目が、定禅寺通のケヤキにつきまして、活用や保全のあり方の検討を進めることを念頭に置きまして、定禅寺通のブランドの源でありつづけるよう「ケヤキというエリアの資源を未来につなげる」というものでございます。

続きまして、重点ゾーン以外の部分でございますが、資料の左下、主に民有地の施策検討

のイメージとして2点記載してございます。

1つ目が、「居心地のよさの向上や滞在時間の延長を図る」という方向性、もう1点が、カッコ書きで例示しておりますような、様々な「施策の組み合わせにより、相乗効果を生む」という方向性でございます。

次に、資料の左側中央、メディアテーク・県民会館周辺につきましては、定禅寺通ゾーンの方角性と重複する部分もございませうけども、「定禅寺通や地域との連携を深め、施設とエリアとが魅力向上の相乗効果を生む」という方角性、そして、「文化・芸術等の資源を、集客や滞在時間の延長につなげる」という方角性を記載してございませう。

その下、市民会館・西公園北端周辺でございませうが、勾当台エリアの西側から、西公園、青葉山へとつながる連続性を生むべく、「西公園から青葉山との結節点となる」こと、また、連続性や回遊を生み出す契機として「定禅寺通や西公園のみどり、広瀬川との距離の近さなど広瀬川左岸という特性や、川に沿って他のエリアとのつながりを活かす」という内容でございませう。

資料右側の錦町公園・錦町庁舎周辺につきましては、市民会館周辺と同じような趣旨で、「本町や錦町から花京院、仙台駅との結節点となる」という内容、また、周辺に集積する「居住者や就業者等が気軽に足を運ぶ、多様な人々の居場所を目指す」という内容を、それぞれ記載をいたしてございませう。

最後に資料の右上、北庁舎周辺でございませう。こちらにつきましては、「勾当台エリアの北に広がる、都心居住者の集積が進む地域と勾当台エリア、特に市民広場等とのつながりを生む」ということ、そして、新本庁舎整備に伴う、分庁舎からの組織集約の後を見据え、「本庁舎等との近接性を活かす形で、幅広い視点から有効な土地活用を図る」という方角性を示してまいりたいと考えてございませう。

資料4につきましては、以上でございませう。

事務局：続きまして資料5のご説明を申し上げます。

資料5でございませうが、こちらは、先程資料2のビジョン素案の第4章に該当する部分となります。

左上の囲み、【構成（案）】のところではございませうが、これまでご説明申し上げました「勾当台エリアの基本的方角性」を受けまして、この章では大きく2点、「重点ゾーンの詳細と空間イメージ」につきまして、また、「勾当台エリアビジョンの実現に向けて」という内容を記載してまいりたいと考えてございませう。

1の重点ゾーンと空間イメージでございませう。

こちらでは、市民広場周辺ゾーン、そして定禅寺通ゾーンの2つにつきまして、将来的な施策の方角性の案の詳細を記述しますとともに、パースやイメージ図、写真などによりまして、勾当台エリアのまちづくりを牽引する、これらのゾーンの空間的なイメージをお示しいたいと考えてございませう。

続きまして下の2番、勾当台エリアビジョンの実現に向けてでございませう。

勾当台エリアビジョンの策定後に進めてまいります、今後の施策の具体化、また、都心全体のまちづくりに係る計画の検討に向けて発するメッセージのような位置付けの内容を、本



ビジョンの最後に盛り込んでまいりたいと考えてございます。

具体的には、1つ目の○印ですが、この懇話会の場でいただきます、委員の皆様からのご意見について、その概要を記載したいと考えてございます。

その後、2つ目と3つ目の○印でございますが、新総合計画や改定版都市計画マスタープランに掲載予定の、資料右側で参考ということでお示ししておりますが、「仙台都心をめざすまちの姿」、こちらをお示しし、勾当台エリアと他のエリアとの関係性等を記述いたしますとともに、4つ目の○に記載のとおり、令和3年度に策定予定の、都市計画マスタープラン地域別構想における、都心全体の議論につなげていきたいと考えております。

以上につきまして、本日の懇話会にて頂戴するご意見を基に、イメージ図の作成や各般の調整を行って中間案としてとりまとめ、次回の懇話会に改めてお示しさせていただきたいというふうに考えているところでございます。

大変長くなりましたが、ご説明は以上でございます

宮原座長： はい、どうもありがとうございました。

それでは、資料の3、それから4・5とご説明をいただいておりますが、特に資料の3の、都心における勾当台エリアのあり方の整理と、そしてコンセプトのコピーとして「The Greenest “Center” ～『仙台』を生み出すところ～」という案が提示されておりますが、こういったものについてのご意見、それから、資料4の今後の施策検討のイメージ、吹き出しの記載のところがりましたが、これの方向性についても、皆さんからご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

まず、資料の3からいきますか。勾当台のエリアコンセプトということで、今までの議論の整理がされました。資料の3の最初のところでは、仙台駅の黄色いところと、それから仙台市役所を中心とした勾当台エリアとを対比して、異なる方向性をここで定義しています。勾当台エリアでは「多機能性や都心イメージの集積という強みを最大限に活かして、仙台らしさを意識したグローバル志向の発展を目指す」と書かれてあります。その勾当台の部分というのが The Greenest “Center” というふうに、ここでコピーを提示されております。何か、ご意見・ご質問がありましたら、お願ひします。

姥浦座長代理： 姥浦でございますが、非常にうまくまとめていただいている、あまり申し上げることはないのですが、まず資料3限定で申し上げます。1ページ目の右の図と文章ですが、細かいことですが、上の方に緑で勾当台エリアの話を書いていただいて、下のほうに仙台駅で書いていただくと、上の図と下の文章がマッチするかなという気がします。

あと、悩ましいなと思ったのが、先程、高山委員にお伺いした話ですが、要は昔の人って健康で元気で足腰が強くて、だから仙台駅から三越までちゃんと歩いてたという、なんとなくそんなイメージがありました。意外とそうでもないということをお伺いして、仙台駅に来てもらって、その人達に対して歩いて頑張っただけでこっちまでというのは、半分正しいんだろうけれども、半分幻想かもしれないという気もちょうとしています。ですから、本当のエントランスは仙台駅というのは、これは仕方がないというか。当然仙台駅ですけれども、その仙台駅からこちらのサブエントランス的なところに、どうやって人を持ってくるのかとい

うのも結構重要なのかなという気がいたします。

それは、ハードの整備なのか、それともソフトなのか、色々あると思います。先程の高山委員の話にあった駐車場なのかもしれませんし、やっぱり公共交通だとすると別の考えだと思えますが、その辺がというとちょっと、どうやって仙台駅から来るのかは色々あると思いますが、歩いて来られるし、そうじゃない、簡単にも来られると。もしくは、家から直接こちらに来られる、エントランスは仙台駅なんだけれども、そういうサブエントランス性を高めるといふことも、結構重要なのかなという印象を受けました。

それから、エリアコンセプトの名前ですけども、The Greenest “Center”というのは、非常に、総合計画を受けられてよいコンセプトだと思いますが、何となく定禅寺や勾当台、要はイメージにあるのは天神ビックバンみたいなものなんですけども、あれくらい昭和な名前じゃなくてもいいと思いますが、こう変わるんだというメッセージが何かあるといいな。じゃあ何がいいんだと言われると、よく分からないです。すみません。感想程度でございますが、以上です。

宮原座長： はい、ありがとうございました。

他にありますか。舟引先生、お願いします。

舟引委員： 姥浦さんが褒めた後で、文句を言っははいけないですが、さっきと同じなんです。ロジカルにデータをもって答えを出しているっていうまでに資料3はまだなっていない。きれいな言葉をたくさん並べて、キーワードを並べて、それを全部網羅するっていうのは、やり方の1つではありますが、それで他の人に上手く伝わるのだろうかということなんです。

私は不動産のデベロッパーを手伝った事もあるので、どうしても床の話ばかりするのですが、不動産価値をどうやって高めるかっていうことがやっぱりポイントで、時々例に聞く東京の「大丸有」の話だって、あれは不動産屋さんが自分達のために作ったデザインガイドラインです。エリアの価値を高めてエリアマネジメントをする。この定禅寺・勾当台の価値を高めるのに何でもかんでもやる、ということだと、結局何にもやらないんだねというような読み方をしてしまうので、そこがちょっとこのままだと危険だなと。

一方で、このミックスというキーワードはなかなか面白くて、センターと言ってそこに何があるかということ、職住隣接で様々なものがミックスするまちづくりだということ、ある程度打ち出せる。それを、仙台駅エリアとの役割分担だけで考えると、やっぱり勾当台エリアのあり方が他のエリアと関係なく突然出てくるというのはちょっと変だと思います。

上の画で見ると、仙台駅とかその他のところは、総合計画の中でどういう役割を持っているかと比較して、仙台市役所周辺は何を担うべきなのか、ということなのかなと。矢印の回遊性の話はまた切り離して、後で話をしたいと思いますが、例えば西公園から追廻エリアが、今度、新しいものを含めて、大きなオープンスペースの中心となって生まれ変わるとすると、それに対して定禅寺・勾当台エリアは同じ緑を基調とするけれども、イベントアクティビティだとか、さっきから出てきているまちの賑わいとかの、「昼間からお酒飲めるよ」みたいな、そんなアクティビティを受け止めるということなのかなと思うんですね。

そこで、何でも出来ちゃうという書き方よりは、「何に特に重点を置くんだ、そのために

土地利用転換がなされた時、ビルの建て替えが起きた時に向けてこんな方向性を出して、行政として将来、サービスをするのだ」というようなロジックで組み立ててくると、「ここに不動産投資したら将来的にもっと値段が上がるのかな」とか、「ここだったら住んでもよいかな」という世界になると思うので、そのためには何かというと、たくさん色々なこと書いてあるけど、書いてあることが、言葉が若干、書いた人には失礼だけど、ちょっと浮いて遊んでいる感じがするので、やっぱり身近なプランなので、書いた言葉には必ず現実のプランなりイメージが結びついていないと、書くべきではないんじゃないかと。

その言葉をうまく現実のイメージと擦り合わせたような書き方にしないと、このローカルとかグローバルとか言ったって、なんの事かわからない。それだったら、職住近接でいつでも遊べる楽しいまちとかという言い方をすると、割とイメージが沸く、出やすいような感じになるのかな。何となく、さっきから皆さんの議論を聞いていると、そういうイメージはなんとなく共通しているので、それを言葉にして表して、売り出していくということではないかと思います。以上です。

宮原座長：ありがとうございます。資料3のところ、ありましたら。

姥浦座長代理：今の話、舟引先生のお話にちょっとだけ。職住近接を強調されたのかは少し分からないのですが、確かに居住者はかなり増えていて、この人達をどう持ってくるのかというのは、すごく重要だと思います。来街者だとか歩行者通行量を見てみると、その人達も非常に重要ですが、外の人達も非常に重要だと思うので、職住近接という側面は非常に強くて、それは側面としてはよいと思います。特に、また後程、こっちのエリアの資料4のところ出てくるとは思いますが、定禅寺通の西側は特にそういうイメージが多分強いんだと思います。青葉通なんか西の方は完全にマンション街になっています。

それに対して定禅寺の東側の方は、ややそれよりは外からの人というイメージが強いと思いますので、中の人達の職住近接プラス、外の人達にどうアピールするのかという、両面、両方が重要ななと思いました。

宮原座長：ありがとうございます。では、岩間さん。

岩間委員：舟引先生が、私の違和感を見事に言葉にしてくださってすごいなって思いながら聞いていました。私はエリアコンセプトの The Greenest “Center” っていうのは、とても総合計画とも連動していて、イメージが沸くなっているのがありましたが、一方で、センターがあるなら、コーナーもあるのかという、連動性がやっぱりないと唐突だなと思いました。

なので「仙台駅のすぐ近くは『Greenest〇〇』、勾当台の方は『Greenest〇〇』です」の方がまだ、連動性があって分かりやすいのかなと思います。そうでないと舟引先生がおっしゃったように、ふわっと着地する言葉になってしまうのかなというのが、この言葉を読んだ時の印象でした。

もう1つ、センターを名乗るのであれば、ダイナミックさをすごく感じるので、ダイナミックさでいった時に、この資料に書いてある例えば協働によるビジョンの位置付けとか

て、その他の資料でも読んだことがあるような、仙台では協働が盛んなので、すごくどこでも言いやすいし、仙台らしい言葉だとは思いますが、たぶんそれはみんなやっているから、ダイナミックではないと思います。当然、この辺のエリアだと、エリアの打ち出し方によって、不動産デベロッパーとかも、「そういうコンセプトだったら、こういう建物建てたいですね」というような、結構活動しやすいエリアだとは思っているので、このもしセンターを名乗るのであれば、下に紐づいていく施策とかも、結構ダイナミックなものになっていくんじゃないかなということを感じました。ソフトだけじゃなくハードの話も出てきていますのでそう思います。以上です。

宮原座長：ありがとうございます。高山さん、資料3に関して何かありますか。

高山委員：資料3か、4かもしれないですけど、姥浦先生のお話にもあったように、外から来る方を、いかにこの定禅寺通に引き付けるかというところはポイントになると思います。そういう意味では、このエリアを考える時に、交通とかサインとか、そういった部分も、ちょっと違うのかもしれないですけど、要素をコンセプトの中に入れていかなければならないのかなというのを感じています。

あと、資料4の方になりますが、仙台市、行政が所有されている土地の部分については、深く触れられていますが、民有地の部分ってなかなか触れにくいと思います。ただやはり、ある程度民有地にも、どういったコンセプトの企業、事業者を誘致するのか、そのエリアをどういうエリアにしたいのかというのがないと、正直、今のところまだ定禅寺通にある店舗とかそういったものは、まだまだ弱いと思います。外の人を引き付けるまでの魅力がない。イベントをやれば、外からも集まってきますが、普段使いをする時に、まだまだ県外の若い子が定禅寺通に行こうという目的になっていないと思うので、そういう目的になれば。お店の魅力とか。

この間も定禅寺通活性化検討会のワークショップがあって、福島の学生さんがやっぱり「目的がないし、何があるかわからないし、インスタ映えするようなものもない」といったお話をされていたので、そういう意味では何か誘導する、事業所を誘導する、魅力あるエリアにするための、民を活用するかっていうのも民間任せではなく、もしかするとある程度、誘導するような必要性もあるのかな。その方が、岩間さんがおっしゃっていたように、民間も投資しやすいというか、引っ張っていきやすいというか、そういったところもあるかなと思います。

宮原座長：ありがとうございました。この辺で、事務局で何かコメントあれば。

事務局：冒頭のエリア設定のことに少し戻っていくような話ですけども、定禅寺通が約700mありまして、やはり西側と東側とでだいぶ多様性があるというのか、違いがあるのは特徴だなと思っているので、エリアを広げた時に、先程のような、職住近接のような部分というのは、どちらかという定禅寺通で見ていくと、西側の方にそういった要素が強くて、市役所の近く、まさに当初想定していた勾当台のエリアというのは、市民広場がありまして、コロナで

今は動いてはいませんが、元々は年に270日稼働する市民広場です。なかなか全国にもないくらい、屋外で屋根が全然ないけど非常に稀なくらい多用されていて、イベントが多くて、平日もやっておりますし、賑わいを生む仕掛けのひとつがあります。

またこれから、勾当台ビジョン、このビジョンに基づいて、市民広場、勾当台公園のリノベーションを行う時期がやってまいります。そういった時に、色んな要素がありまして。国分町に面しているところもございまして、お酒を出すことも可能だと思っております。そういった多様性があるところを、統一のビジョンにする時にどうしていくか、ちょっと内部でも色々話をしている、非常に悩ましかったところではあります。

先程のように外の人に訴えかける部分と、職住近接で中の人を中心にターゲットとして持っていきほうがよいのかなと思われる部分と、2つ大切にしながら、これからどんどん変えていくということだと思っております。今までの状況とか、これまで歩んできた、つくってきた状況がございまして、そういうものと合わせて、どのようにうまく表現していったらいいのかなというのが、非常に今、我々も悩んでいるところです。

宮原座長：ありがとうございます。ちょっと資料3については、私も皆様のご意見と一緒に、1ページの右側の部分の勾当台エリアの主な特性のあり方は、資料のとおりではあります。これをどのように集束していくかが分かりづらく、もう少しターゲットを決めていくといいのかなと思います。

それからエリアコンセプト、「The Greenest “Center”」という、「Greenest」はすごく素敵なイメージだと思います。でも「センター」は、古いという言い方は失礼ですが、古いかなと思って。例えば中心という意味では、「コア」という言葉もあります。「The Greenest “Core”」のような形で、言葉をちょっと変えるだけですが、もう少しセンターよりも深めのイメージとして使っていくのもいいのかなと思いました。

では資料の4で、事務局からも触れていただきましたこのエリア構想図ですが、いくつかこのように重点ゾーンということで、仙台市さんとしてゾーンをいくつか決めて、設定してみたいということですが、これについてはいかがでしょうか。

姥浦座長代理：先程、舟引先生からご指摘いただきましたので、ちょっとだけ申し上げます。資料4ですが、2つの重点ゾーンというのは非常によく分かるのですが、一番の本当の重点ゾーンの重点ゾーンというか、Greenestのセンター・オブ・センターという箇所がどこって言われると、一番町を出た交差点のところだと思います。ここに1つは一番町の商店街があり、2つ目に市民広場があり、3つ目にこちら側に定禅寺、あちらに公園があるという。ここが一番の肝の肝だと思うので、それが2つにブチッと切られているように見えるのが、非常に図として問題だなと思っておりますし、計画を立てる上でもあまりよろしくないかなという気がいたします。

何がポイントかと言いますと、先程からしつこいですが、来街者を考える、1つの大きなターゲット層だと考える。一番町の商店街から出てくる人達がほとんどで、もしくはそれを想定する訳で、ビジョンで「こうなって欲しい」と想定する訳ですから、この一番町のところにどういう魅力ある商店を置くのかとか、商業施設を考えるのかというのがはまず重要で

す。

それで今、商店街から出たところがどうなっているのかというと、市役所が北に見えますが、その市役所の手前は車道になっていて、歩行者はそこをよけて、市役所が見えなくなるころの横断歩道を渡らせられると。本当に、一番町を出たところのポイントっていうのは、今は車のために使われているわけで、市民広場が向こう側にあるはずですが、その市民広場の前に1つビルがあって、そこで完全に切られているという、そういう空間構造になっている訳です。そこを何とかする必要はあるのではないかと。道路の空間と、場合によっては民有地をどうするかっていうのも含めて、市民広場との一体性を考える必要があるということが2つ目です。

3つ目が交差点の西側ですけども、定禅寺通で今やってらっしゃると思いますが、道路空間の再構成みたいな話を、今年はコロナでお金をあまり使わなかったみたいですがやっていらっしゃるということで、これについては晩翠から東側がどうなるのかということが一番のポイントだと思っていまして、居心地がよく歩きたくなるまちなかとか、ウォークアブルとか色々書いてありますけれども、そういうところを作り出すのが、まさにここであって、少しずつ西側に行くところとちょっとグラデーショナル的に、車もあり、歩行者もいてという、少しずつそういった形になってくるような気がします。

ですから、空間としてはこの交差点のところ、一番町を出たところにどんな空間を整備するか、すべて変えるなり、さらには施設として重要なものを持ってくるという、その位置づけ、ここがセンター・オブ・センターだという位置付けをした上で、そこに注力していくのかというのがポイントかなと思います。

あともう1つ申し上げると、道路空間の再構成のところ、今、ケヤキもそろそろ50年、60年なり、ケヤキって何年生きるのか分からないですけど、長いものは100年生きるという話ですが、そろそろ限界がきているものもあると伺います。ある意味当然の話ですが、ケヤキもいつまでも生きられるわけではないので、どう植え替えていくのかという、公園サイドの話もこれから恐らく、そのあたりは舟引先生があとでおっしゃっていただけたと思いますが、そういうものともリンクしながら、将来像ってどういうものなのかっていうのを思い浮かべ実験していく、実験しながら試してみるという、そういうサイクルが必要だと思います。

この晩翠東側の部分というのは、そういう意味でも非常に重要ですので、そこが分かるような書き方をしていただけると、先程から出ている、民間の人が投資といった時も、ボヤッと全体的に投資という訳じゃなくて、まずはここからスタートして、次は、というように、見えやすくなるかなという気がいたしました。以上です。

宮原座長： ありがとうございます。舟引先生。

舟引委員： しり通りのようで。エリアの中の話は次にするとして、姥浦先生がおっしゃっていた、外からの人をどうもってくるかということですが、特に道路機能の再編成ということで、たぶん誰も考えていないアイデアですが、資料1のこの図を見ると分かりやすい。エリアの外の話です。

定禅寺通をそのまま東へずっと進むと、ちょうどホテル白萩のあるところでぶつかります。それから南、これ駅前通というのか花京院通ってというのがあって、都市計画道路もどちらもそこで止まっています、ほぼ道路機能としては、なきゃなくていい、とまで言うと怒られますが、通過交通が基本的にあまりないところです。これを、道路の再編成でウォークアブルにするのだったらこっちが先じゃないだろうか。この右角のかぎ型のところ、南はアエルのところ、JALシティの所までペDESTリアンデッキが繋がっていますから、車線をなくして歩行者空間にするのだったら、こっちを先にやるとよいのではないかと思っています。今、定禅寺通って何と言っても、60年前の遺産でもっている訳ですから、ここに20年ぐらいのスパンで同じものをつくれとは言わないですが、仙台に来て、駅に降りたらこっち向いて歩け。今、青葉通はさすがにお城まで行くにはちょっと遠いけど、こちらはそんなに遠くないので、白萩ホテルの角っまで行くと、定禅寺通がバーッと向こうの方に見えると、さっき言ったウォークアブルがずいぶん広がっていく。ただ、これは都市計画の大きな話なので都市計画マスタープランの姥浦先生にどうかというのを聞かないといけないですが、このぐらいの事をすると、回遊の話もずいぶん確保できるし、その職住近接でいて住んでいる人が、郊外に出なくても朝ジョギングをしたり、ウォーキングしたりという人達が、仙台でも山程居て、そこで都心に住んでもそういう活動がずつとできる、ぐるっと回って何キロあるかな。3、4キロあるのかな。というようなことも確保できるし、結果としてエリアの中に力を入れるより、定禅寺通に行く人も増えるのではないだろうかと思って。かなり遠大な計画ですけど。

そんな方向性って、このビジョンの中で言える、言えないはもちろんあるけど、実際は、例えば使い古した話ではありますが、ニューヨークで高架を潰さずに、ハイラインという、今は緑化されたただの道ですけど、年間数百万人の観光客が訪れていてそこを歩くと、お隣の韓国、ソウルの清溪川（チョンゲジョン）も有名になっちゃって、夜中は皆集って遊んでいますから、そういうことを10年、20年先のことを考えてやっていく。職住近接で楽しい街だったら、外の人も歩いて行けるんですよ。「楽しい」が先であって、職住近接は「楽しいまちをつくるために、お客さんがすぐそこにいる」ということなので、それも踏まえてやったらいいのかなという気がします。

そうすると、今度は資料4の話で、やっぱり重点ゾーンって、これが目的だからついつい黄色で力を入れるのは分かりますが、この重点ゾーンというのは、そういうまちづくりをやっていく中でこの黄色いゾーンは何をすべきか、というところから導き出すべきであって、こんな感じにした方がいいんじゃないのって思っていることが、先に出てしまっている感が若干ある。主に民有地と言っているようなところは脇役な訳だけど、実際はここも含めて主役になるはずで、主に民有地の活動を支えて、誘導するために公共空間というのは整備すべきで、公共空間のロジックだけでエリアをどう、ということには多分ならないんです。書いてあることは悪いことではないのですが、順番の整理なのかもしれませんが、ここにもちゃんと、花京院と仙台駅の結節点となるような所があるので、これがうまくつなげるような書き方ができると面白いと思います。

あと、姥浦先生から振られた生き物の話でいくと、定禅寺通のケヤキ並木なんて、よく考えると60年前に植えたものです。だからそれを、後生大事にとっても大切だと言いがちにな

るけど、更新させてまた60年後にとか、そういうことを常に考えていけばいいと思うんです。今あるものにどうしてもこだわりがちですけど。

ただその時に、さっき岩間さんがおっしゃったような、根上がり問題というのが出てくる。あれ、なんで根上がりするかというと、下にちゃんと根っこが伸びる空間を確保せず、安普請すると、結果としてあんなふうになるわけです。だから、仙台市の道路で根上がりしていたら、最初、設計と施工の時にお金をケチったと。パークタウンなんかは比較的、根上がりしているところ少ないですし、これも結局、生き物をどうやって大切にすかかっていうことを、どっか理念に書いてほしいところがありますよね。そういうイメージで、このエリアを大切にするという感じではないでしょうか。

宮原座長： ありがとうございます。他にいかがでしょうか。  
高山さん、どうぞ。

高山委員： 現実問題として、やっぱり定禅寺のエリア、勾当台エリアをどう活性化していくかという時に、色々と話題になっています市役所の建て替えとか、それこそ市民広場、勾当台公園の再整備、あとは県民会館、もしかすると錦町公園に音楽ホールができるかもしれないし、わかりませんが、そういった部分が大きいのかなと。

民有地の場合ですと、なかなか行政で誘導するにしても、そう簡単にはいきませんが、行政で所有している不動産については、皆さんの考えを反映しながら、早急に整備することは可能で、なおかつ集客力もあるので、そういう意味では、このエリアの価値を高めるという意味で、この重点エリアと言いますか、ゾーンになっているというのは、よく理解できると思います。あと、そういった中で、いかにしてまちの価値を活かしながら民間の商業者を引っ張ってきて、利益を得ていただいて、まちを元気にしていただくかということだと思いますので、そことうまく連動していくようなビジョンになればいいなと思います。

重要なのはたぶん、定禅寺通に人を引っ張ってくるのに、東二番丁、一番町だけじゃなくて、今の流れでいえば東二番丁の北側とか、あとは本町とか、結構、若い方の飲食店やファッション、あとは美容とかの起業が増えていまして。やっぱりそれは、駅から近いということもありますし、賃料が安いということもありますし、あと、そういった集積。

皆さん独立する時って、顧客をある程度抱えて独立しているので、場所が多少悪くても、それなりの利益は確保できるという目論見があってされていますが、一部、それは失敗する方もいらっしゃいますけど、頑張ってる経営されています。なおかつ、本町の商店街さんなどでも、そういう若い人たちの声がだんだん強くなってきて、七夕も今年はやる予定はなかったのに「なんでうちの商店街はやらないんだ」と若い人たちが立ち上がって、急遽、七夕を飾った。それも創作七夕。七夕の伝統とはちょっと違いますが、新しい、ちょっと面白い七夕です。そういった動きとかも生まれてきていて、その辺にいらっしゃるお客様を、定禅寺に誘導するっていうのも、またひとつだと思います。

入り口は色々、立町を経由してこちらにいらっしゃる方もいるでしょうし、そういった連続性が、このエリアのビジョンと合わせて、必要になってくるのかなと。先程の17ページにあった起業でも、エリアがちょっと、勾当台といっても本町とかも含まれているので、結構



あの中には本町とかの数字とかもずいぶん反映されているんじゃないのかなというような、詳しくは分かりませんが、そんな感じがして、そういった上手く伸びているところが、ちょうど仙台駅とエリアを結ぶところにありますので、そういったところを活用して、勾当台や定禅寺通のエリアを発展させていくという。確か都心再構築プロジェクトにも、本町などのエリアはちゃんと記載されているはずで、そういったのが必要かなと感じました。

宮原座長： ありがとうございます。

そうですね、あと5分くらいですが、資料の1・2も含めて、何か全体を通して、皆さんのお伝えしたいことなど、ございますでしょうか。

姥浦座長代理： すみません。全体じゃないですが、資料の4で、ちょっと1つ言い忘れたので、申し訳ございません。

この周辺とのつながり、今の話も全部含めてですけれども、周辺とのつながりというのが、やや漠然と線が引かれているようなイメージもありますので、それぞれの線がどういうイメージ、何を意味しているのかというところを、もう少し具体的にイメージしながら、この線を描いていただけると、今までの議論みたいなものもまとまってくるのかなという印象を受けました。以上です。

宮原座長： ありがとうございます。あと、何か全体としてご意見ございますか。気が付かれたこととか。よろしいですか。

## (2) 今後の検討の流れ等について

宮原座長： では、議事の(2)です。今、ようやく(1)が終わりましたので。今後の検討の流れ等についてというところで、事務局からご説明をお願いいたします。

事務局： 資料6、今後の検討の流れ等につきましてご説明を申し上げます。資料6をご覧ください。

本日、第2回の検討懇話会を開催させていただきましたけども、第3回は11月上旬頃の開催を予定してございます。内容といたしましては、勾当台エリアビジョンの中間案につきまして、ご意見をいただきたいと考えてございます。

近日中に開催日時の調整に向け、ご都合を委員の皆様にお伺いしたいと存じますので、よろしくをお願いいたします。

第3回検討懇話会の開催後、11月中旬には中間案を確定させ、11月下旬から1か月程度、パブリックコメントを実施したいと考えてございます。

その後、令和3年1月には第4回懇話会を開催し、パブリックコメントの結果等を踏まえた最終案について、ご意見をいただけてまいりたいと考えてございます。

最終的には、1月下旬頃、勾当台エリアビジョンを策定したいと考えてございます。

ご説明は以上でございます。

宮原座長： ありがとうございます。今後の検討の流れにつきまして、ご質問・ご意見ございますか。

(質問・意見等なし)

よろしいですか。ありがとうございました。

今日は、資料の1から2で、7月に皆さんからいただいたご意見を基にして、事務局でさらに取りまとめをしてくださったものと、資料の3以降で、新たにエリアコンセプトや、それからまちづくりの方向性の部分で、資料、エリアの構想図の案等々、ご説明をいただきました。

今日は、皆さんからさらに、ご意見をたくさんいただいたと思います。私個人として、今日印象的だったのは、エリアのつながりということもそうですが、ひとつは「景観」という部分です。最終的にこの色々な機能はあるけれども、どのような景観が見えてくるのだろうかということ、姥浦先生からは、資料の4でいうと、一番のセンターになるところの道路の十字路のところからの景観とか見え方の重要性のご意見をいただきました。また、高山さんからも、様々な交通の標識であるとか、見え方に関してもご意見をいただいていたので、このエリアが個性あるエリアであるという、ビジリビティの部分はどうやって作っていくか、ないしはデザインしていくかという議論も、必要になるかと思えます。

それから、今日の議論の中では、居住者、職住近接で地域のこのエリアに住む方たちの場所なのか、または外の人をどう誘導していくかという指摘もありました。それから、このエリアは多機能なのでこのところでは、ここは居住者だけとか、ないしは外の人向けにどんな色々やるということではなくて、やはりこの地域が、また仙台駅の周辺と違う佇まいであるとか、それから雰囲気であるとか空気、そういったものがきちっと醸し出されてくるような場になってくるのが重要なのだと思います。

私が東京にいた頃に、東京の中でも青山とか表参道などは、その場所の名前を口に出すと、皆さんがイメージする、高級感であるとか、素敵なお店の佇まい、そういったものが、他のまちと違う空間を作っています。こうしたところは、東京の中でもいくつかあって、他所の人引き付けるし、それから住んでいる人も、そこに住んでいて、その機能をととても楽しみながら誇りに思っているのを感じます。仙台も仙台らしさって言った時に、「らしさ」をどこに求めていくかというところは、もう少し議論も必要なのかなと思います。やっぱりこのまちが一番好きと、仙台に戻ってきた人達が、この勾当台エリアでもホッとして、やっぱり仙台っていいね、って言ってもらえるような、そういう場になるようになったらいいなと思いました。

今日は舟引先生からかなり広い、仙台駅までの、定禅寺通をもっと、東へ東へと延長していくといったような、思い切ったプランもご提示いただきましたけれども、やっぱり小さくセンター、コアとしてみる部分と、広く、視野を広く持ってその位置付けを考えていくということも、両方の目で見てフォーカスしたり、少し外から見たりっていう、そういった視点を変化させながら議論していくのが、大事なのかなと思いました。

ということで、今日は時間になりましたので、以上になります。委員の皆さんから何かございますか。

舟 引 委 員： すみません。この参考図。さっき片付けようと思って、こんなのあったって気が付いたのですが。大きいほうの地図。これはいいですよ。これ見ると、寺町入って、東北大が入って。

前回も申し上げたと思うけど、要するに仙台に来てどこを見せたいっていうのが、それこそウォークアブルの範囲内で、1枚の中に結構収まっています、これを外にちゃんと打ち出していけるといいかな。この中に勾当台が、その中でも特に輝いているという恰好だと、作り出すのによいものだけれども、仙台の人は誰も、東北大が人を連れていく場所だと思っていないでしょうから、なかなか。

姥浦座長代理： これがそれっぽくなっているんじゃないですかね。

宮 原 座 長： 最終的な資料の5ですかね。

姥浦座長代理： 一応、東北大も入れていただいておりますし。

舟 引 委 員： これは、東北大は入っていますが寺が入ってないんです。

高 山 委 員： 片平キャンパスには魯迅先生の階段教室があって、中国からのお客様をよく連れて行ったりはしています。

宮 原 座 長： 色々と、さっき言ったように、クローズアップしたり、鳥の目になったり、色々議論していただければと思います。

それでは、今日は、これをもちまして、第2回の勾当台エリアビジョン策定検討懇話会、こちらを閉会させていただきます。今日はありがとうございました。

以上